

# 2022年3月期第3四半期 決算概要

2022年2月10日

 日本タングステン株式会社

1. 第3四半期の経営成績の概況(連結)

2. セグメント別の状況

3. 財務の状況(連結)

4. 通期業績の見通し

ご参考

# 1. 第3四半期の経営成績の概況(連結)

## 経済環境

- ▶ 欧米諸国 : 世界的な半導体の供給不足による生産への影響や、新型コロナウイルス感染症の変異株の拡大により、回復のペースが鈍化する中で推移
- ▶ 国内経済 : 新型コロナウイルス感染症による活動制限の緩和が進みながらも、製造業の回復が一服したことや、変異株の拡大による懸念もあり、不透明さを増す中で推移

## 当社の注力市場

- ▶ 半導体・電子部品市場 : 好調を維持
- ▶ 自動車部品市場 : 半導体供給不足の影響を若干受けているものの、好調に推移
- ▶ 産業用機器・部品市場 : 回復を継続
- ▶ 衛生用品機器・医療用部品市場 : 緩やかに回復しながら推移

## 当社グループの取り組み

「日本タングステングループ2024中期経営計画」の推進

- ・不採算商品の撤退も視野に入れた販売施策の推進
- ・新型コロナウイルス感染症による落ち込みから回復が遅れている商品の収益向上対策
- ・新商品開発状況のモニタリングの徹底等により、成長期待事業の拡大に向けた新商品開発のスピードアップ



# 1. 第3四半期の経営成績の概況(連結)

## 連結売上高

半導体・電子部品市場が好調を維持しており、自動車部品市場が半導体供給不足の影響を若干受けているものの、好調に推移。

また、産業用機器市場は回復を継続しており、衛生用品機器・医療用部品市場は緩やかに回復しながら推移したこと等により、増収

**連結売上高: 88億3千7百万円**

(前年同四半期比23.0%増)

## 営業利益

売上高の増加による操業度の向上に加え、コスト削減活動による売上原価率の改善及び予実管理システムによるコスト管理の強化等により、増益

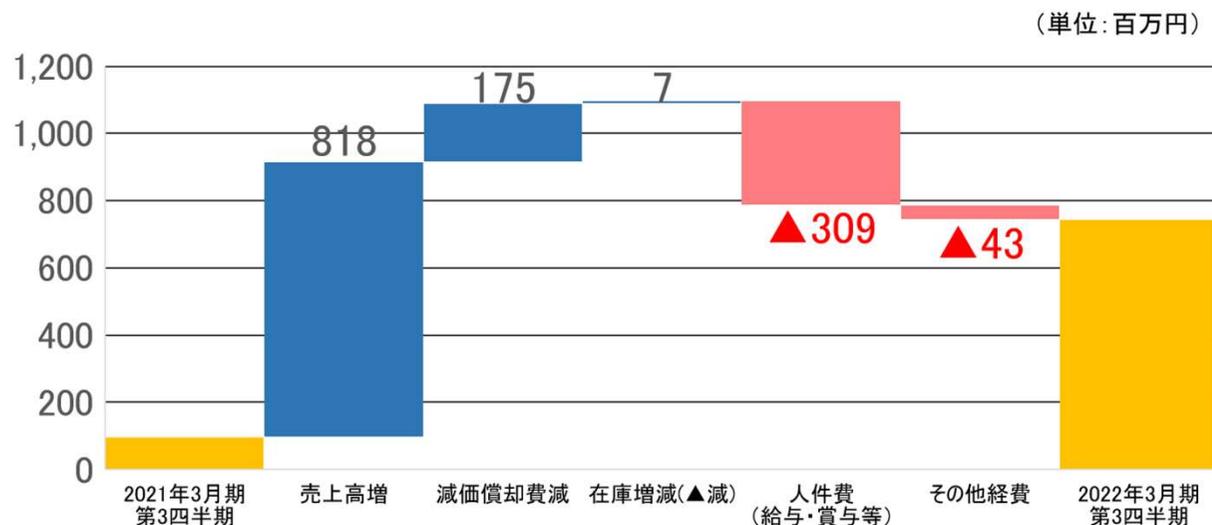
**営業利益: 7億4千4百万円**

(前年同四半期比664.2%増)

## □ 連結業績

	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	(単位:百万円)	
			対前年比 増減額	増減率(%)
売上高	7,182	8,837	1,654	23.0
営業利益	97	744	647	664.2
経常利益	344	962	617	179.3
親会社株主に帰属する四半期純利益	372	704	332	89.2

## □ 営業利益増減要因



# 1. 第3四半期の経営成績の概況(連結)

## 経常利益

営業利益の増加要因のほか、前年同四半期に雇用調整助成金を計上したことによる営業外収益の減少要因はあったものの、増益

**経常利益: 9億6千2百万円**

(前年同四半期比179.3%増)

## 親会社株主に帰属する四半期純利益

法人税、住民税及び事業税が増加したこと等により、経常利益並みの利益の伸びはないものの増益

**親会社株主に帰属する四半期純利益: 7億4百万円**

(前年同四半期比89.2%増)

## □ 連結業績

	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	(単位:百万円)	
			対前年比 増減額	増減率(%)
売上高	7,182	8,837	1,654	23.0
営業利益	97	744	647	664.2
経常利益	344	962	617	179.3
親会社株主に帰属する四半期純利益	372	704	332	89.2

## □ 主要な経営指標

	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期
売上高営業利益率	1.4	8.4
自己資本四半期純利益率(ROE)	3.6	6.8
総資産経常利益率(ROA)	2.2	6.3
1株当り四半期純利益	154.41	292.40

## 2. セグメント別の状況

### セグメント別業績(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

		2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	対前年比 増減額 増減率(%)	
機械部品事業	売上高	4,193	4,898	704	16.8
	営業利益	279	751	471	168.6
電機部品事業	売上高	3,004	3,998	994	33.1
	営業利益	177	380	202	113.8
その他	売上高	—	—	—	—
	営業利益	—	—	—	—
調整額	売上高	△15	△59	△44	—
	営業利益	△360	△386	△26	—
全社	売上高	7,182	8,837	1,654	23.0
	営業利益	97	744	647	664.2

#### 機械部品事業 業績

売上高：48億9千8百万円  
(前年同四半期比 16.8%増)  
営業利益：7億5千1百万円  
(前年同四半期比168.6%増)

	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期
売上構成比	58.3%	55.1%
営業利益率	6.7%	15.3%

#### 電機部品事業 業績

売上高：39億9千8百万円  
(前年同四半期比 33.1%増)  
営業利益：3億8千万円  
(前年同四半期比113.8%増)

	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期
売上構成比	41.7%	44.9%
営業利益率	5.9%	9.5%

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により大きく減収減益となったが、2021年度は両セグメントとも回復基調となり増収増益となった。

## 2. セグメント別の状況

### セグメント別四半期業績推移

(単位: 百万円)

	2021年3月期				2022年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	
機械部品事業	売上高	1,516	1,360	1,316	1,431	1,562	1,678	<b>1,657</b>
	営業利益	153	50	76	103	255	268	<b>228</b>
電機部品事業	売上高	982	859	1,162	1,284	1,324	1,356	<b>1,317</b>
	営業利益	20	20	137	206	81	162	<b>136</b>

※ 売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額

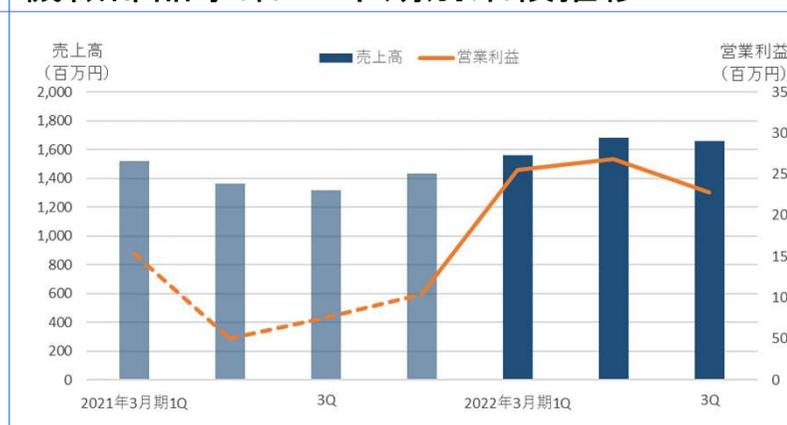
#### □ 機械部品事業 (第3四半期連結会計期間)

売上高は、第2四半期並みの水準で推移。半導体・電子部品市場が好調、産業用機器・部品市場も堅調に推移。衛生用品機器・医療用部品市場が低調。衛生用品機器の減収等によりやや減益となるも、高い水準を維持。

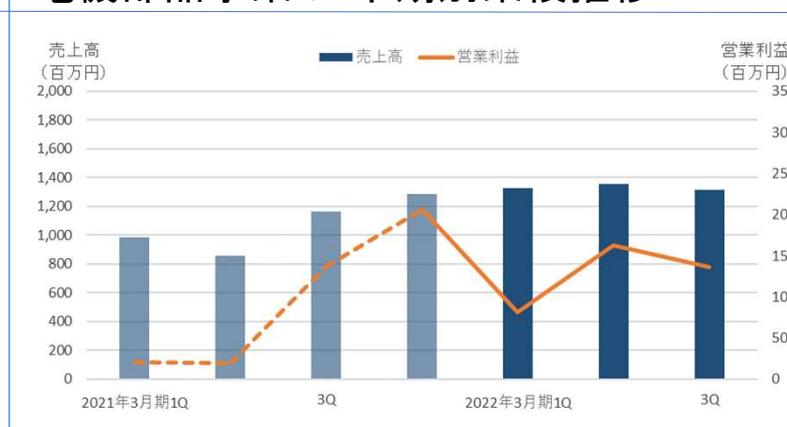
#### □ 電機部品事業 (第3四半期連結会計期間)

売上高は、産業用設備向けのブレーカー用電気接点が増加。自動車部品市場が半導体供給不足の影響を若干受けており、減収となった。自動車関連製品の減収により減益。

#### 機械部品事業 四半期別業績推移



#### 電機部品事業 四半期別業績推移

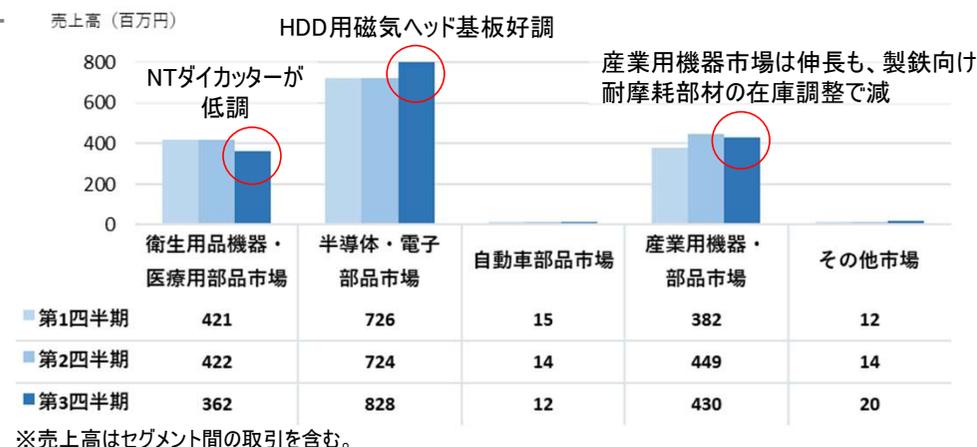


## 2. セグメント別の状況(機械部品事業)

### 各注力市場の四半期業績推移

- ・半導体・電子部品市場は、好調を維持
- ・産業用機器・部品市場は、顧客の在庫積み増しの一服により、第2四半期より若干減少も、回復基調は継続
- ・衛生用品機器市場の四半期別推移は、収益認識基準により計上される第3四半期末時点の売上高が減少したこともあり、低調に推移

機械部品事業 市場別売上高 (四半期別推移)



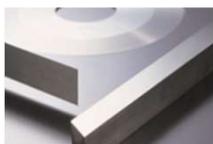
### 各注力市場の主な商品の状況(前年同四半期累計期間比)



#### 半導体・電子部品市場

##### 情報関連機器のハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板

- ▶ データセンター向けの大容量HDDの需要が好調を維持していることや、顧客の在庫積み増しもあり増収



#### 産業用機器・部品市場

製鉄所向けの耐摩耗部材が顧客の在庫積み増しが一服し減少したものの、塗付工具用の超硬長尺製品の需要増もあり、増収



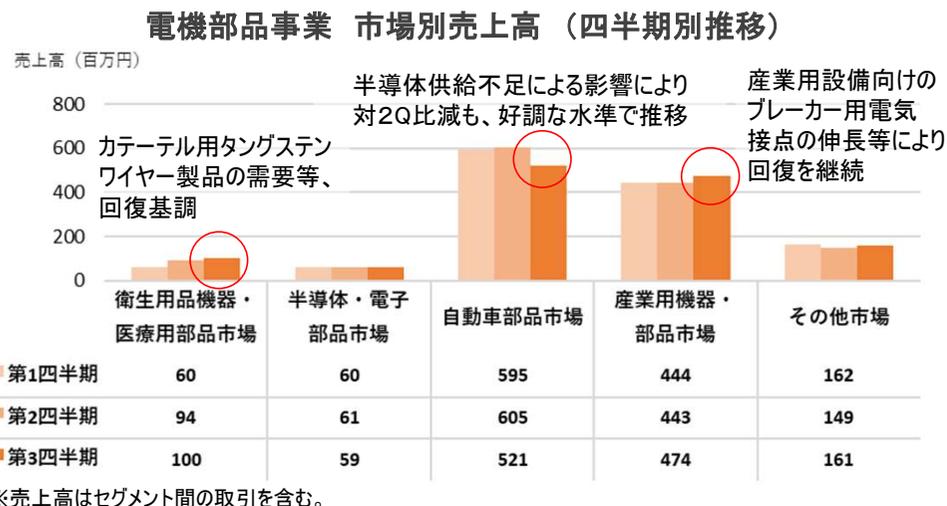
#### 衛生用品機器・医療用部品市場

NTダイカッター ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響による落ち込みから緩やかに回復を続けているものの、低調に推移し微増

## 2. セグメント別の状況(電機部品事業)

### 各注力市場の四半期業績推移

- ・自動車部品市場が、半導体供給不足の影響を若干受けているものの、好調に推移
- ・産業用機器・部品市場は、一部在庫調整の影響等あるものの、回復を継続
- ・衛生用品機器・医療用部品市場は、カテーテル用タングステンワイヤー製品の需要等、回復基調で推移



### 各注力市場の主な商品の状況(前年同四半期累計期間比)

#### 自動車部品市場

- EV用接点 ▶ 半導体供給不足の影響を受けているものの、増収を継続
- 電装部品溶接用の抵抗溶接電極 ▶ 半導体供給不足の影響は若干であり好調な水準を推移

#### 産業用機器・部品市場

- 産業用設備向けのブレーカー用電気接点 ▶ 一部在庫調整の影響等あるものの、海外の新電力関連の設備投資等の需要もあり、増収

#### 衛生用品機器・医療用部品市場

- 医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品 ▶ 需要が回復基調となり、増収



当社の電気接点が組み込まれた配電盤のブレーカー



### 3. 財務の状況(連結)

#### 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期 第3四半期	対前年比 増減額
総資産	14,994	15,755	760
負債	4,983	5,282	299
純資産	10,011	10,472	461

#### 総資産

主に棚卸資産及び固定資産が減少したものの、現金及び預金や売上債権が増加

##### (流動資産)

増加	現金及び預金	+674
	売上債権	+649
減少	棚卸資産	△168

##### (固定資産)

減少	有形固定資産	△241
	無形固定資産	△8
	投資その他の資産	△80

#### 負債

主に賞与引当金が減少したものの仕入債務、未払法人税等、繰延税金負債及び賞与支払いに伴う未払社会保険料が増加

##### (流動負債)

増加	仕入債務	+103
	未払法人税等	+32
	その他	+265
減少	賞与引当金	△119

##### (固定負債)

増加	繰延税金負債	+54
----	--------	-----

#### 純資産

主に利益剰余金が増加

増加	利益剰余金	+487
----	-------	------

#### □主な経営指標

	2021年3月期	2022年3月期 第3四半期
自己資本比率(%)	66.7	66.4
1株当たり純資産(円)	4,151.88	4,337.86

## 4. 通期業績の見通し

### 今後の見通し

今後の経済見通は、新型コロナウイルス感染症の変異株による感染拡大により、経済環境は不透明な状況が続くと思われる。当社グループの第3四半期決算は想定内で推移しており、現時点で2022年3月期の通期業績予想は、連結、個別ともに2021年11月11日に公表した業績予想値及び配当予想を据え置く。

2022年3月期通期業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
連結	11,500	16.2	900	226.8	1,000	55.4	750	—	311.31
個別	11,000	17.5	650	424.6	900	60.4	650	—	269.80

### 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2021年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 40.00	円 銭 40.00
2022年3月期	—	50.00	—		
2022年3月期(予想)				50.00	100.00

## 経営成績(連結)

(単位:百万円)

区分	2018年3月期 第3四半期	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期
売上高	8,223	9,509	8,790	7,182	8,837
営業利益	596	908	490	97	744
経常利益	812	1,039	654	344	962
親会社株主に帰属する四半期純利益	605	751	479	372	704
純資産	9,560	9,979	10,303	10,243	10,472
総資産	15,194	15,996	16,539	14,974	15,755

## 経営指標(連結)

区分	2018年3月期 第3四半期	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期
売上高営業利益率 (%)	7.3	9.5	5.6	1.4	8.4
自己資本比率 (%)	62.7	62.2	62.2	68.3	66.4
1株当たり純資産(BPS) (円)	3,943.90	4,100.62	4,218.13	4,248.09	4,337.86

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。